


宇部市SDGs未来共創企業 インタビューシート

2026年3月提出

基本情報

	企業(団体)名	株式会社宮商		
	代表者名	代表取締役 宮下悠子	業態	法人
	業種	I: 卸売業・小売業	従業員数	50人
	所在地	〒759-0134 山口県宇部市善和牛明387-35		

積極的に取り組んでいる開発目標



インタビュー項目

① 普段どのようなことをされている企業(団体)ですか？

当社は1978年に創業し、今年で49年目の会社です。東京都世田谷区に東京本社、山口県宇部市に宇部支店と宇部工場を構えています。事業内容として、セメント原料を取り扱う商社部門と、半導体原料のポリシリコンの受託加工の加工作業部門の2つの部門があり、卸売業と製造業の2つの側面を持つハイブリットな企業です。従業員は50名、役員を除くすべての社員が女性です。

商社部門では、国産のセメント商材の他、タイ産天然石膏を扱っています。加工作業部門では、半導体原料の製造工程の中でも、熟練した作業者の手作業が必須とされている破碎工程のみを取り扱う、非常にニッチな業務を行っています。



株式会社宮商 宇部支店

②SDGsに取り組むに至ったきっかけ、理由は？

当社がSDGs項目の中でも大きく軸としている項目が2つあり、ひとつはジェンダー平等実現に向けての「企業の女性活躍」、もうひとつは格差社会における「こどもの貧困への支援」です。

SDGsという言葉が広く知られるずっと以前より、半導体事業の作業員として女性の力が適していた事情から、当社では女性の従業員が全体の6割以上を占めていました。その環境の中「どうしたら従業員がもっと働きやすくなるだろう」「どうしたら社会の中で活躍する人材が育てられるだろう」という事を常に考えた結果、企業の中で女性が活躍しやすい風土・制度・体制が整い、その内容を周囲から評価していただけるようになりました。

もう1つの軸である「こどもの貧困への支援」については、代表取締役である宮下悠子のライフワークでもあり、金子小児科医院の金子淳子院長が主催する「みんなや食堂」の立ち上げメンバーに加わり、地域食堂の活動に企業として協賛・参加することとなりました。



半導体部門のポリシリコン破碎工程

③普段どのようなことに重点的に、或いは意識してSDGsに取り組んでいますか？

「女性活躍」としては、全国的にも特に割合の低い「女性管理職」の育成と、「仕事と家庭の両立」「仕事と子育ての両立」が出来る体制づくりに力を入れています。

ワークライフバランスを大切にしており、一般的な支援策の他に、「残業を発生させない」「時短勤務・時差勤務・選択制休日勤務・リモート勤務可・副業可などの柔軟な働き方」「障害児保育・病児保育・こども園に優先入園できる制度などの育児支援」「女性活躍相談窓口の設置」など、宮商独自の支援体制を整えています。実際に、現在は「育休取得率」「職場復帰率」「女性管理職比率」はすべて100%で、これまでに行政機関からの様々な認定・表彰をいただいています。

「こどもの貧困への支援」としては、みんなや食堂への協賛だけでなく、直接ボランティアとしての参加を通じて、社員全体の社会活動への意識を高めています。また、日本ユネスコ協会連盟のU-smile事業と提携した沖縄体験旅行の協賛をきっかけに、現在は「子供の第三の居場所」である「きっずらっふ」で毎年春休み・夏休みに行われる旅行の協賛支援を行っています。



女性管理職へのリーダーシップ研修

④2030年に向けたSDGsの取組について、現状や今後の予定を教えてください。

「SDGs達成に向けた宣言書」には3つの目標を記載させていただきました。

①女性管理職比率 80%以上

今後もこれまでの制度・風土の維持とともに、さらなる女性活躍、及び、子育て制度の策定をおこなっていく予定です。

②地域ボランティアへの社員の参加率の向上

今後もみんなや食堂の活動を協賛企業として支えると共に、社員の自発的なボランティア参加率を40～50%に引き上げたいと考えています。

③DX推進、ペーパーレス推進

働き方改革のひとつとして、現在紙で整理している情報を全てシステム上で一元化することで、現在70%以上の紙の使用比率を、2030年までに30%以下まで引き下げたいと考えます。

「持続可能な社会」実現の重要性を、企業活動を通して社員ひとりひとりが自覚し、社内が一丸となってSDGsの達成を目指します。



地域食堂「みんなや食堂」の風景